

議会報

飯 南

い
い
な
ん

- 02 年頭のあいさつ
- 03 12月議会報告
可決した主な議案
各会計補正予算
- 04 一般質問
- 11 討論／採決の結果／広報研修報告
- 12 決算審査報告／秋の叙勲
- 13 臨時議会／陳情／討論／採決の結果
- 14 常任委員会報告
全員協議会の議題／議会活動報告
- 16 明日を拓く

第68号
令和4年1月20日



年頭のごあいさつ

飯南町議会議長 早樋 徹雄



明けましておめでとうございます。
町民の皆様には、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、議会活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

昨年の改選により、新たな顔ぶれで議会を構成しておりますが、町民の皆様の負託にこたえるべく、全力を尽くしてまいります。一層のご協力をお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症は、新たな変異株も現れるなど依然として厳しい状況に変わりはありません。

様々な形で暮らしに大きな影響を受けておりますが、本年は3回目のワクチン接種も予定されております。高い効果を発揮し、一刻も早い収束に繋がるよう願っております。

町民の皆様のご健勝と本年が希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

令和3年 12月定例会を終えて

12月7日から17日までの11日間で開催

コロナ禍で外食産業が低迷し続けたことから、主食用米の概算買取価格が大きく値を下げた。生産者の意欲減退は、飯南米ブランドの構築に支障をきたす懸念があり、生産を継続してもらうよう主食用米次期作継続応援金(町独自事業)を交付する。

子育て世帯等臨時特別支援事業は、年内に10万円を一括支給することとなり、子育て世帯を応援できる事業となった。

また、住民税非課税の821世帯にも、年明けに10万円を支給するなど、コロナ対策応援金2億889万円の追加を含む一般会計補正予算を議決した。

可決した主な議案

認定

令和2年度飯南町一般会計、各特別会計歳入歳出決算及び各公営企業会計決算の認定

条例関係

飯南町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定など2件

予算

令和3年度飯南町一般会計補正予算(第8号)など8件

諸議案

公の施設(飯南町農産物加工施設)の指定管理者の指定

[令和3年度 各会計補正予算]

八神里山住宅(仮称)の事業実施期間の変更に伴う7294万円の減額、町道整備事業の交付金確定に伴う4545万円の減額、主食用米次期作継続応援金交付に伴う2930万円の増額、子育て世帯及び住民税非課税世帯等への臨時特別給付に伴う1億5155万円の増額など

一般会計 6803万円 増額

会計名	補正予算額	予算総額
一般会計	6803万円	104億2145万円
特別会計	国民健康保険事業	1215万円
	後期高齢者医療事業	0万円
	介護保険サービス事業	△5万円
病院事業会計	△24万円	12億8222万円
簡易水道事業会計	438万円	4億3892万円
下水道事業会計	△3万円	5億3086万円

琴引山

山頂の岩屋の下には大国主命が爪弾いた琴があると伝えられています。
撮影者:倉橋 英氏



一般 質問

令和3年度 12月定例会



弱者対策充実を

伊藤 好晴 議員

**Q 学校・公共施設へ
生理用品を**

「生理の貧困」をなくし、金銭的理由で生理用品を買うのに苦労をしなくてもすむ町を目指すため、学校や公共施設の女子トイレ及び多目的トイレに生理用品を常備することを求める。

**Q 特別障害者手当
わかりやすい啓発を**

「特別障害者手当」は、障害のある人が簡単に理解でき、自分が対象になるかどうか判断できることが非常に重要だ。役場の窓口や医療機関へ足を運んでいただくきっかけになるよう改善を求める。

ホームページの特別障害者手当受給項目に「身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の取得の有無、指定難病等の認定及び介護認定の有無は要件ではありません」を追加された。

A 考えていない

町長塚原隆昭

学校では保健室に備えてあり、経済的理由で使用できないということはなく、トイレには置かない。

一般的に、トイレに生理用品を配置することは衛生面でも問題がある。

A 徹底対応をする

町長塚原隆昭

支給対象から漏れないことが大事。要介護4以上の人たちは、関係者で徹底して対応する。該当と思われる方にどう伝えるか検討していく。

ホームページは、他の自治体のもを参考に、できるだけわかりやすい周知啓発に取り組む。



老人福祉施設の今後は

内藤 眞一 議員



**Q 新型コロナワクチン
副作用の対応は**

2回目の新型コロナワクチン接種後、頭痛・高熱のため3カ月学校を休んでいる中学生がいる。複数の医療機関を受診したが回復していない。

このようになったときの対応策について、他の事例を調査しているのか。また、対応の手順書を作成しておくべきではないか。

**A 個々にあわせた
対応を**

町長塚原隆昭

学校では、生徒の主治医と情報共有を行い、共通認識を持ちながら生徒への対応を行っている。また、過度に登校を強いることなく、家庭訪問により生活リズムを整えることを中心に指導している。町では、保健福祉課において、県や医療機関と情報共有しながら対応している。

接種後の副反応や心配ごととはまちまちであるため、個々に合わせた対応を保健福祉課でいねいに行っていく。



**Q 福祉施設を統括する
組織づくりを**

本町には老人福祉施設が8施設あり、400人弱が利用されているが、全ての施設で介護士不足という課題を抱えている。

今後福祉施設は必要であることから、引き続き施設が維持できるよう、町が中心となって各施設の代表者による組織づくりをすべきではないか。

また、施設福祉について社会福祉協議会の在り方を問う。



飯南町社会福祉協議会

**A 今後を見据えた
体制づくりを**

町長塚原隆昭

高齢者福祉を取り巻く課題は、安心安全な暮らしを守るうえで重要かつ迅速に解決していかなければならない。

介護福祉分野では、事業所のトップで構成された「飯南町福祉施設協議会」で、人材確保に関する合同研修や物品の共同購入などを行いつつ、現在の高齢者福祉を支えていただいているが、今後の飯南町全体の高齢者福祉を考えたときには、立ちいかなくなることは明らかだ。

そのため、副町長をトップとし保健福祉課を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、社会福祉協議会の在り方や介護福祉施設を統括する団体の設立などの諸課題に取り組んでいく。

Q 福祉灯油の制度化を

原油の高騰による燃料の高値、食料品の相次ぐ値上げや電気料金など光熱水費の引き上げが家計を圧迫している。農家や運送業者、クリーニング業など燃料を大量に使う業者をはじめ、コロナ禍にあえぐ地元業者の方々からも悲鳴の声が上がっている。



一刻も早く町民生活と生業支援策等を講じるよう次の3点を求める。

①生活保護世帯や低所得世帯、ひとり親、高齢、障害者世帯等への福祉灯油制度を実施すること

②地元中小業者に対する燃料費助成制度を創設し、

**A 長引けば福祉灯油
助成を発動**

町長塚原隆昭

高齢者施設などからはひつ迫した状況ではないと回答があった。

長引くようなら福祉灯油助成を緊急措置的に発動する。指定管理施設、公共施設、地元中小業者、福祉施設へも同様の考え方だ。

実施すること

③学校、図書館、公民館など町の施設の暖房代を十分確保することとあわせ、民間の福祉施設などへの暖房費助成を行なうこと

一般 質問

令和3年度 12月定例会



農業をとりまく環境は

熊谷 兼樹 議員



リースハウス(上来島)

Q 新規就農者支援制度刷新をどう捉えるか

本年度農林水産省は、将来の農業の担い手となる49歳以下の新規就農者を育成する新規就農者支援制度を刷新した。その主な変更部分について、町はどのように評価しているのか。

新制度では財源の負担を地方自治体に求めている。知事会・町村会では、これまでどおり国が全額負担すべ

きと要請しているが状況はどうか。地方自治体に負担を求められた場合、本町はどのように対応するのか。

A 農地を守るため新規就農者は必要

町長塚原隆昭

現行の制度では、月額13万円を3年間定額助成している。新制度では機械や施設整備にも使え、総額で1000万円になる。新制度の方が支援も手厚くなり有利である。

新制度では、自治体が財源確保できない場合、事業を活用できない可能性もあり、農家に不平等が生じる恐れがある。財源については、秋の概算要求時以降、新たな情報は得られていない。

農地を守るために新規就農者は必要だが、新制度にはわからない部分も多く慎重に検討したい。



防災計画・訓練の充実を

平石 玲児 議員



Q 危機管理の現状は

地域防災計画の策定状況、災害対策本部・避難所の運営マニュアル及び訓練はどうなっているか。

今年の防災訓練は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を最優先するため中止し、自治区・自治会単位などで実施したいということだったが、現在までの状況は。

11月には来島地区で悲惨な民家火災があったが、高

齢者世帯の通報装置の設置状況は。災害時の情報収集や危険箇所でのドローンを活用できないか。

A 鋭意努力している

町長塚原隆昭

地域防災計画は、現在見直し作業を行っている。年内に原案を作成し防災会議に諮って改訂する。初動マニュアルや避難所運営マニュアルも本年度中に見直す。災害対策本部での情報伝達訓練は、毎年実施している。

自治区・自治会単位の訓練は、これまで谷・来島・小田真木・志々地区で実施されており、緊急通報システムは173戸に設置している。

7月豪雨の災害調査で、国土交通省のドローンにより被災状況を確認できた。ドローンを活用している団体との連携を考えたい。

Q 農林業の振興を



飯南米の認知度を上げるには、GAP(農業生産工程管理)の取り組みが必要ではないか。そのうえで「美味しまね認証」を取得し、ブランド化すべきだ。

国は、主食用米から飼料用米への方向転換を示しているが、町の方針は。

農地の有効活用として、太陽光発電などのインフラ整備を考えてはどうか。

木質バイオマスセンターは、将来的な化石燃料からの脱却・転換を考えると、十分期待できる事業だ。設備を充実させる考えはないか。

園芸農家もコロナ禍で収入減だ。助成しては。

A 前向きに取り組む

町長塚原隆昭

「美味しまねゴールド」は、今後のブランド力強化の一翼を担うものであり、認証を推奨していきたい。

国は主食用米から飼料用米への転換を進めているが、本町は良質米の産地であり、積極的な転換を進める必要はない。農地は水稲や水田園芸での活用を願っていた。

木質バイオマスセンターは、安定した品質のおが粉の生産を優先する。

園芸作物は価格や流通で大きな影響を受けてないと思う。現時点で生産者への支援は考えていない。

Q 農産物の販路拡大を

町内産農産物を販売する産直市場(ぶなの里・ぼたんの郷・iまるシェ等)のコロナ禍での販売状況と生産削減等の動向を問う。

農産物の安定的な生産には販路の確保が求められる。最近、本町出身者による独自の販売ルートができていると聞くが、どのように捉えているか。

販路の拡大により需要が増加した場合、集出荷施設を整備する考えはないか。

A 販路開拓したい

町長塚原隆昭

iまるシェを含む町内産直市場は、販売額の大きな変動が無いことから、コロナの影響は受けていないものと推察している。野菜や産直への支援は、もう少し調査し検討したい。

本町産野菜を独自ルートで広島で販売されることは、生産者に収益を還元で



iまるシェの店内

きるありがたい取り組みだ。週3回iまるシェ号を使って三次まで運搬しており、そこから先は関係機関と調整したい。

今回のことは、本町出身者との繋がりであり、これを大切にし都市部に新たな販路開拓ができればと考えている。

施設整備は、継続的な管理・運営を考えると、町独自では難しい。

J A雲南地区本部は、施設整備を行政に頼る傾向がある。事業主体となるJ Aや生産組合とよく協議をしたい。必要であれば支援も考える。

一般質問

令和3年度 12月定例会

農産物の出荷環境改善を

安部 丘 議員



Q 福祉の未来予想図作成は急務

2年前に「高齢者福祉の方向性」を問うた。当時町長は「本町福祉の未来予想図を描くことが肝要で、第二次総合振興計画後期計画に反映する」と答弁した。しかし2年経つが状況は変わっていない。町が掲げる『日本一健康福祉のまち』を実現する第1歩がこの『未来予想図』だ。

来年度中頃には、介護保険9期計画を策定する必要があり、魂のこもった計画が望まれる。計画策定を推進するためにプロジェクトチームを結成し、取り組むべきではないか。

A 副町長をトップに進める

町長塚原隆昭

介護職のみならず給食調理など、全ての部門で人材が不足。合わせて老朽化が進んだ施設の建て替えの問題。法人統合の話もあり、本



特別養護老人ホーム あかぎの里

当に急ぐ課題だ。

10月に副町長と保健福祉課長が全事業所を訪問した。事業所のトップからは、サービスの継続や地域を支えたいという想いを感じた。町としても、これを形にすべきと考えており、副町長をトップとしたプロジェクトチームを立ち上げ、早急に検討を進める。

Q 放課後の居場所 事業を問う

行政への住民参加を促すためには、役場が持つ情報をわかりやすく整理して、問題点を示した上で複数の案を周知する必要がある。放課後子ども教室と児童クラブの違いがわかる資料を配布し、意見交換会の開催を求める。

また、地域力を高める目的のある子ども教室において、どのように地域住民の協力を得て体験・学習支援を実施するのか。



放課後子ども教室とムラサキキッズのコラボイベントの様子

A 放課後子ども教室の充実を

教育長 大谷 哲也

令和4年度に向けて「放課後子ども教室」を充実するよう検討を進めている。今後、資料を提示し、利用者の声を聞く場を設けたい。

地域住民の協力については、来島の放課後子ども教室に、来島公民館の「ムラサキキッズ」とコラボした軽スポーツを取り入れたり、公民館を通じて文化団体との交流ができないものかと思案している。他の地区でも体験メニューが実現できるように関係者と協議したい。



Q プレーパーク どう思うか

11月23日に開催された公園整備に関する意見交換会で、参加者から自然の中で子どもが遊びを自分で考える場(プレーパーク)を作ってほしいという声があった。

町の魅力を生かし、課題解決にも繋がるアイデアだと思ふがどうか。

A 公園整備への検討

町長塚原隆昭

農林大学校林業科の学生からプレーパークの提案があった。日頃当たり前に感じている自然環境そのものが、子どもにとって最大の遊び場であるということに改めて気づいた。

この提案は、ひと・もの・こと、という地域資源豊かな飯南町に本当に適したアイデアだと感じた。ベテラン保育士も自然と触れ合うことの大切さを述べていた。公園整備の1つのアイデアとして検討する。



おokayamaプレーパークにて

Q 住民主体の公園を

飯南町は住民主体のまちづくりを推進している。行政が考え、与える公園ではなく、プロジェクト(検討委員会)を通してみんなで考え、みんなで作り上げる、みんなの公園にしないか。

A 意見もらい進める

町長塚原隆昭

今回の意見交換会だけでなく、たくさんの方から引き続きご意見をいただき進めていきたい。進捗をみながら飯南町にふさわしい公園整備を進めていく。

Q 地理的ハンデ克服への支援を

新型コロナウイルスの影響で、トマトなど農作物の一部も価格が下落した。経営に不安を抱える園芸農業者も多く、町独自の直接支援が望まれる。

県内外の知人や友人、インターネット等のチャネルを使い、通信販売を始められた方々がいる。新鮮かつ安心・安全な商品は消費者に喜ばれるが、送料が課題。ひとつの事業者でまとめて

A 市場開拓と流通の効率化で

町長塚原隆昭

安全で良質な農産物を知ってもらう方法として直販は有効な手段だが、指摘のとおり送料がかかる。

J A雲南地区本部がインターネット通販を行ったが、鮮度維持や競合他地域との差別化が難しく、思った程の成果はなかったと聞く。観光協会でも、町外在住の関



また、関係人口との関係深化は地域づくりに繋がるうえ、ブランド形成にも有効だ。町長の考えを問う。

係者を対象に通信販売を試行したが、同様の結果であった。

このことから農産物の個別通販は課題があると認識している。町としては、有利販売が期待できる市場開拓と流通の効率化が大切と思っている。



事業休止中のエリーゼは

高橋 英次 議員



Q(株)エリーゼ現況は

- 株式会社エリーゼは、平成24年より町内において従業員を募集し、玄米に600気圧で加圧を行い、超高圧加圧玄米として販売する会社であったが、平成30年12月をもって事業は休止となっている。
- 平成31年2月の全協において説明を受けたが、以後説明が無いため、以下の質問にて現況を問う。
- 1 現在、土地使用料の支払いは継続中か。
 - 2 工場内の機械メンテナンス状況は。
 - 3 裁判の結果は。
 - 4 事業継続の意思は。
 - 5 施設譲渡は可能か。
 - 6 本町の今後の方針と対応は。



(株)エリーゼ飯南工場外観

A 返還明け渡し措置も考えている

町長塚原隆昭

- 1 土地使用料年額33万4200円は、毎年納付期限までに納付されている。
- 2 メンテナンスについては、会社のことなので詳細には把握していないが、行われていないと思われる。
- 3 裁判については、当時は調停を行っていたが不調に終わり、現在は当事者同士が相手を訴えて係争中であるなど、長期化している。
- 4 事業継続については再開に必要な資金面が課題で、事業パートナーとなる企業が必要であるが、裁判が決着しないと再開できないと聞いている。
- 5 施設の譲渡にしても、裁判が決着しないことには譲渡の話もできない状況だ。
- 6 町としての基本的な考え方は、本町の米を原料として6次産業化の推進による産業の振興や、ピーク時には10人以上の雇用もあるなど、期待してスタートした事業であり、事業継続ができるものなら是非お願いしたいと思うが、現在の状態が長期化することは望ましくない。

事業再開の見通しが立たなければ、事業用定期借地権設定契約(期限令和29年)に基づき、解除・返還明け渡し措置もあるとはつきりと伝えてある。仮に契約解除となれば、規定により工場を撤去し更地にすることも盛り込まれている。

町長として町民に説明する立場にあり、いつまでも待てないことは伝えており、早急な解決をお願いしている。

討論

委員長報告に対する討論

賛成討論 伊藤 好晴 議員

11月29日開催の臨時議会において「飯南町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」に反対したが、令和3年度飯南町一般会計補正予算(第8号)には、主食用米次期作継続応援事業が含まれているので反対できない。

賛成討論 熊谷兼樹 議員

臨時議会での「飯南町職員の給与に関する一部改正条例」に反対したが、議員個人と議会の一員としての立場があり、臨時議会でのその条例を可とする議会の意思が示された以上それに従い、議案第77号・議案第79号・議案第80号・議案第81号・議案第82号について、職員の人件費の減額補正を含め賛成する。

採決の結果

[12月定例会]

議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	戸谷ひとみ	平石玲児	安部 丘	景山登美男	安部誠也	高橋英次	内藤眞一	熊谷兼樹	伊藤好晴
飯南町個人情報保護条例等の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町国民健康保険条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公の施設(飯南町農産物加工施設)の指定管理者の指定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度飯南町一般会計補正予算(第8号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	●	○
令和3年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●
令和3年度飯南町病院事業会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●
令和3年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●
令和3年度飯南町下水道事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●

[追加提案]

令和3年度飯南町一般会計補正予算(第9号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
-----------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○:賛成 ●:反対

議会広報常任委員会研修報告

副委員長 戸谷 ひとみ



議会報飯南 第66号

11月11日、島根県町村議会広報研修会に全委員で参加した。日本広報協会広報アドバイザーの長岡光弘氏から「読まれる議会だよりの編集と表現ポイント」の講義を受け、次のことを学んだ。

- ・住民の知りたいニーズに答える
- ・住民が参加する紙面企画を設ける
- ・住民の目をひく見出しと読みやすい文章にする
- ・議案紙面は報告だけでなく経緯の解説もする
- ・住民参加の紙面は、2WAY(双方向)型の編集を心がける

後半はクリニクで、各町村の議会報の講評があった。「議会報飯南」は、題字のデザイン、レイアウト、写真の大きさのバランスが良くデザインセンスのある表紙であると好評だった。一般質問のページは、質問と答弁の見出しを設けてあり短文で構成した文章が読みやすく、余白を効かし視線を使って情報の混乱を招かない表現であると評価された。

「明日を拓く」では、時代を見据えて活動する人が取り上げられており、読者に力を与える情報だとして「今後も継続を望む」と特に高い評価を受けた。

また、全体を通して「住民視点を持った編集を心がけるように」というアドバイスももらった。

この研修で学んだことを活かして「議会報飯南」が住民の皆さんとのコミュニケーションツールとなり、たくさんの人に読んでもらい、議会活動をわかりやすく伝える内容にすることを目指す。

決算審査報告

決算審査特別委員会

委員長 景山 登美男

事務事業実施の見直し

予算を組んだ部署以外の部署で事業を執行しているものが散見される。予算を組んだ部署が最後まで責任をもって事業を執行し、本来の目的が完全に達成されるよう、事務事業実施の見直しを図られたい。

借地の見直し

90カ所を超える借地の中で、利用していない借地が見受けられる。利用目的が終了した借地は返還すべきである。また、返還できない借地は活用を検討されたい。

指定管理

飯南町観光・体験農園及び赤名観光ボタン園の指定管理は同一事業者である。



赤来高原観光りんご園

指定管理者からの聴取によると、リングブルーベリー園とボタン園の管理時期が重なるため、樹木の管理がおろそかになり、収穫に影響が出ている。施設の管理を充実するとともに、リングブルーベリーの収量を確保するためには、指定管理を見直す必要があると思われる。適切な対処を求める。



水道管布設工事

上水道の接続

赤来地域及び志津見・角井地区の上水道接続率は100%であるが、その他の地区では78.6%となっている。特に奥畑・宇山・敷波・佐見浄水場区域の接続率が低い。安定した施設維持管理を継続するため、水道未接続の解消を図られたい。

難波俊司さん
秋の叙勲を受賞
難波俊司さん(塩谷)は、5期20年間の永きにわたり、赤来町議会議員、飯南町議会議員を務められた。この間、議長や副議長を歴任されるなど、地方自治の発展に大きく貢献された功績により、11月3日に秋の叙勲を受賞された。



臨時議会

10月臨時会(10月26日)

・9月30日に提出された陳情(米の需給緩和対策に関する緊急要請)について、委員会付託され、審査の結果、継続審査とした。

11月臨時会(11月29日)

・新型コロナウイルス対策雇用継続応援金の申請件数の増に伴う飯南町一般会計補正予算(第7号)及び議会議員、特別職の職員、町職員の期末手当の支給割合の減額改正のため、条例の一部改正が上程された。

また、10月臨時会において継続審査となっていた陳情について、付託委員会から審査結果報告の後、採択した。

討論〈臨時議会〉

議案第71号 飯南町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

反対討論

伊藤 好晴 議員

- ①職員給与の引き下げは、町内の消費購買力の低下に繋がる。
- ②職員給与は年金・恩給・最低賃金・生活保護費の基礎となっており、広く町民に悪影響を与える。
- ③職員給与の引き下げは民間賃金にも波及し、賃下げの悪循環を招く。

反対討論

熊谷 兼樹 議員

給与に関して、県の人事委員会の勧告にならない町も変えることに反対だ。コロナ禍の中で一生懸命取り組み職員を思えば、賛成はできない。

陳情

米の需給緩和対策に関する緊急要請

- 〔陳情者〕赤来農政会議 会長 松田 栄次
- 頓原農政会議 会長 長島 正一
- 赤来担い手協議会 会長 松田 栄次
- 頓原集落営農組織連絡協議会 会長 神田 博延
- 〔付託委員会〕教育経済常任委員会
- 〔審査の結果〕採 択



頓原元旦マラソン

採決の結果

[11月臨時会(11月29日開催)]

議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	伊藤好晴	熊谷兼樹	内藤真一	高橋英次	安部誠也	景山登美男	安部 丘	平石玲児	戸谷ひとみ
令和3年度飯南町一般会計補正予算(第7号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町職員の給与に関する条例の一部改正	可決	●	●	○	○	○	○	○	○	●

[11月臨時会における陳情の採択結果]

米の需給緩和対策に関する緊急要請	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○
------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○:賛成 ●:反対



現地視察（獅子）

教育経済 常任委員会

委員長：熊谷兼樹 副委員長：安部誠也
委員：伊藤好晴 内藤眞一 高橋英次

常任委員会報告

総務厚生 常任委員会

委員長：景山登美男 副委員長：平石玲児
委員：早樋徹雄 安部 丘 戸谷ひとみ



現地視察（八神）

令和3年度 飯南町一般会計補正予算(第8号)

繰越明許費

委員から「繰越明許費に計上された事業の中に、工期設定が本年度末のものが含まれている。その必要が生じた時点でその理由をつけ計上すべきで、今の時点での安易な繰越の容認は事業の進捗に影響が出る」との質疑があった。

執行部からは、被災箇所が多く査定額も大規模であるため、県にならい一定のエリアでセットにして発注することにした。これにより現場管理者数が少ないことに対応できるが、年度内工期事業と繰越事業が混在することになる。また、年度末に繰越の手続きをすると大変な事務負担が行政と受業者双方にかかる。

災害復旧に関わる職員の負担は現在でも大きく、さらなる負担は避けたいとの説明を受けた。

産地確立推進事業 120万円

蕎麦生産において、国の財源不足と収量の減少により標準的な交付額が得られないため、町が決めた基準額との差額を町単独で助成する。

本年は、収量を対前年比60パーセントと見込み、120万円を補正するとの説明があった。

委員から「本町産蕎麦を使用する町内業者があることから安定した生産量と品質を生産者に求める必要がある」等の意見があり、関係者で協議し対応するとの回答があった。

主食用米次期作継続応援事業 2930万円

この事業の目的は、主食用米買取り価格の大幅な下落により、生産者の経営意欲低下が懸念されるため、次期作に向け応援金を交付し、生産を継続してもらうことであるとの説明を受けた。

委員から「生産者の意欲を保持するため必要な対応だが、次年度も価格が低迷した場合どうするのか、継続は問題がある」との質疑があった。

あくまで次期作応援が目的であり、継続する事業ではない。基本的な米価対策は国が責任を持つべきだとの回答があった。

議会活動報告 [10月～12月]

- 10 1日 議会広報常任委員会（紙面校正作業）
- 6日 議会広報常任委員会（紙面校正作業）
- 8日 飯南町秋季畜産共進会
- 13日 決算審査特別委員会
- 14日 決算審査特別委員会
- 18日 決算審査特別委員会
- 20日 議会運営委員会
（議長からの諮問事項について協議）
- 21日 決算審査特別委員会
- 25日 決算審査特別委員会
- 26日 臨時議会・全員協議会
- 27日 決算審査特別委員会
- 28日 雲南市・飯南町事務組合議会定例会（雲南市）
- 11 4日 決算審査特別委員会
- 8日 総務厚生常任委員会
- 10日 教育経済常任委員会
- 11日 島根県町村議会広報研修会（松江市）
- 12日 島根県中央子牛共進会（松江市宍道町）
- 16日 決算審査特別委員会

- 11 17日 議会運営委員会（視察：美郷町議会）
- 18日 決算審査特別委員会
- 22日 決算審査特別委員会
- 25日 決算審査特別委員会
- 29日 臨時議会・全員協議会

- 12 2日 議会運営委員会（12月定例会の提出議案、日程ほかの協議）
- 7日 12月定例会：本会議、町長提出議案の説明
- 10日 | : 本会議、一般質問
- 13～15日 | : 委員会審査
- 16日 | : 委員会審査、予算特別委員会審査、全員協議会
- 17日 12月定例会：本会議、討論、採決
- 22日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
- 24日 雲南広域連合議会定例会、雲南市・飯南町事務組合議会臨時会（雲南市）
- 27日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）

条例

飯南町国民健康保険条例の一部改正

令和4年1月1日より、出産育児一時金支給額を404,000円から408,000円に引き上げる。

令和3年度 飯南町一般会計補正予算(第8号)

【歳入】 新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金 1849万円

3回目の新型コロナワクチン接種のための国庫負担金。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 2972万円

主食用米次期作継続応援事業及び健康増進施設（加田の湯）への補助の財源とする。

【歳出】 定住促進住宅整備事業 7294万円減額

八神里山住宅（仮称）建設事業が、世界的な木材価格高騰により建築設計の再検討が必要になったため、実施期間を変更する。

この事業は、債務負担行為補正（限度額9000万円）により、令和3年度・令和4年度で実施される。

※債務負担行為
将来の支出を予め約束する行為のこと。次年度以降の支出を義務付ける契約を締結するとき用いる。

新型コロナウイルスワクチン接種対策事業 2761万円

3回目のワクチン接種に要する経費。

健康増進施設経常管理費 157万円

燃料費の高騰に伴い、加田の湯施設管理料を増額する。

令和3年度 飯南町一般会計補正予算(第9号)

【歳出】 住民税非課税世帯等臨時特別支援事業 8904万円

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、速やかに生活・暮らしの支援をするため、令和3年度住民税非課税世帯等(863世帯見込み)に対して、1世帯あたり10万円を現金給付する。

【歳出】 子育て世帯等臨時特別支援事業 6251万円

新型コロナウイルス感染症が長期化する中、子どもたちを力強く支援し、その未来を拓く観点から、児童を養育している方の年収が960万円以上の世帯を除き、0歳から18歳までの児童を養育する保護者(619名見込み)に臨時特別給付金を支給する。

全員協議会の議題

令和3年10月26日(火)

- ①知事要望
- ②島根県人事委員会勧告
- ③飯南町主食用米次期作継続応援金
- ④コロナ対策雇用継続等応援金制度(第4弾)
- ⑤原子力災害避難対応マニュアル

令和3年11月29日(月)

- ①飯南町主食用米次期作継続応援金
- ②災害復旧対応状況
- ③豪雨災害義援金の配分
- ④八神里山住宅(仮称)の進捗状況

令和3年12月16日(木)

- ①子育て世帯臨時特別給付金の支給
- ②住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金
- ③ワクチン3回目接種に係る希望調査の実施
- ④町県民税の課税誤り
- ⑤県営赤名団地の取得
- ⑥頓原小中学校登校路路面検証
- ⑦明治安田生命との連携協定

コロナ禍での町工場の奮闘

株式会社来島化成

代表取締役 澤田純二さん

(野苺)

会社の概要は

事業内容は合成樹脂加工。平成2年に任天堂ゲーム機のハーネス製造を生業として起業。その後、自動車の緩衝材(パッキン)製造に転換し、平成18年に法人化しました。

一昨年、コロナの影響でマツダが稼働を制限したため、一時は売上が6割まで落ち込みましたが、懸命に進めてきた顧客開拓が、徐々に実を結び始めています。

現在は、自動車部品分野(ブリヂストンや西川ゴムなど)での売上高が2400万円(年商換算)。弱電系部品分



左から澤田社長・洋佑部長・勇祐専務

特徴や強みは

充実した機械設備を保有していること。これにより、顧客のリクエストに応えること

野(村田製作所とホシザキ)の売上高が約1000万円。これを従業員7名(役員3名を含む)で運営しています。

事業承継を進めるべく、5年前に長男勇祐(38歳)を、昨年8月には次男洋佑(35歳)を会社に迎えました。若者の行動力と発想のお陰で、会社に活力が生まれたように思います。

ができています。技術面では、ハーフカットの型抜きと、連続プレス。この技術と品質には自信があります。県内有数の技術が、顧客開拓と製品分野の拡大に繋がっています。

今後の展望や課題は

マツダが好調だった頃の売上高が5000万円でした。当面は、それを超えることが目標です。自動車部品だけに頼ると、企業業績の変動に対応するのが大変でした。弱電関係の製品拡大と新たな業態の顧客開拓を進め、景気変動に左右されない強い企業体質への転換を目指し進めているところです。

課題は人材の獲得。5000万円を売り上げるには、人材の獲得が不可欠です。今のところは、ハローワークと町人材確保センターが頼みの綱です。今後は、外国人技能実習生の活用も視野に検討していく必要もありそうです。

勇祐氏(専務取締役)の夢は

既存の部品点数も増やして

いきたいし、新規顧客も開拓していきたい。そのために、ビジネスマッチングにも積極的に参加していこうと思っています。

「新しい設備を入れ、新しい人を採用して」という流れを作り、皆が目標に向かって働けるような一体感のある会社にしていくのが夢です。先頭に立ち、向上心を持って仕事に取り組んでいきます。



油圧プレスを使った製造工程



製品検査の様子

募集

「明日を拓く」で取り上げてほしい会社や個人、団体、行事やイベントなどの情報をお寄せください。取材に伺います。議会報の表紙に使う写真の募集も併せて行います。自薦他薦は問いません。皆様からのご応募をお待ちしています。

《応募先》飯南町議会事務局 0854-76-2190

今月の表紙写真



これは毎年元旦に開催される頓原の「元旦マラソン」の1シーンです。屋根や道路に積もった雪の中、およそ2キロのコースを約50人が参加して走りました。これは頓原公民館の主催で、交流センターとんばらをスタート、町区連坦地と県道を一周するマラソンです。頓原の恒例行事で、元気いっぱい走り回る子どもたちの原体験として、記憶に深く残っていくことでしょう。